

令和5年度エゾシカ捕獲対策の実施状況

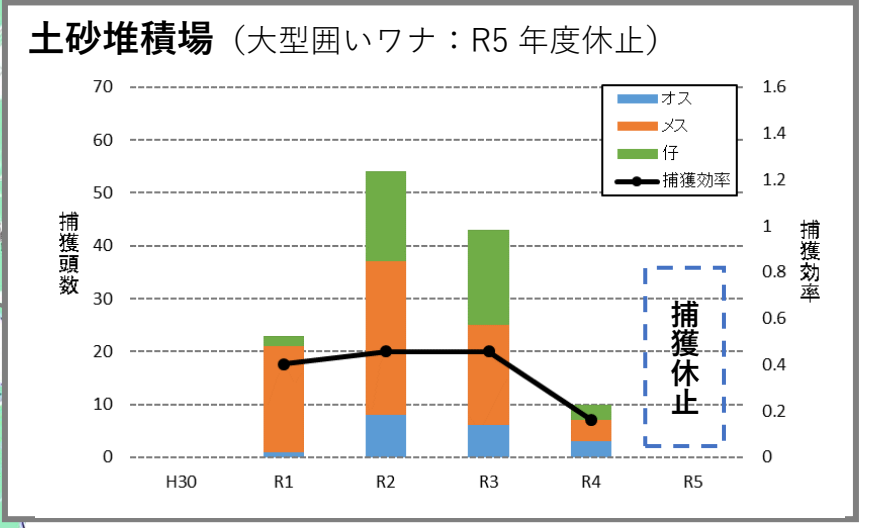
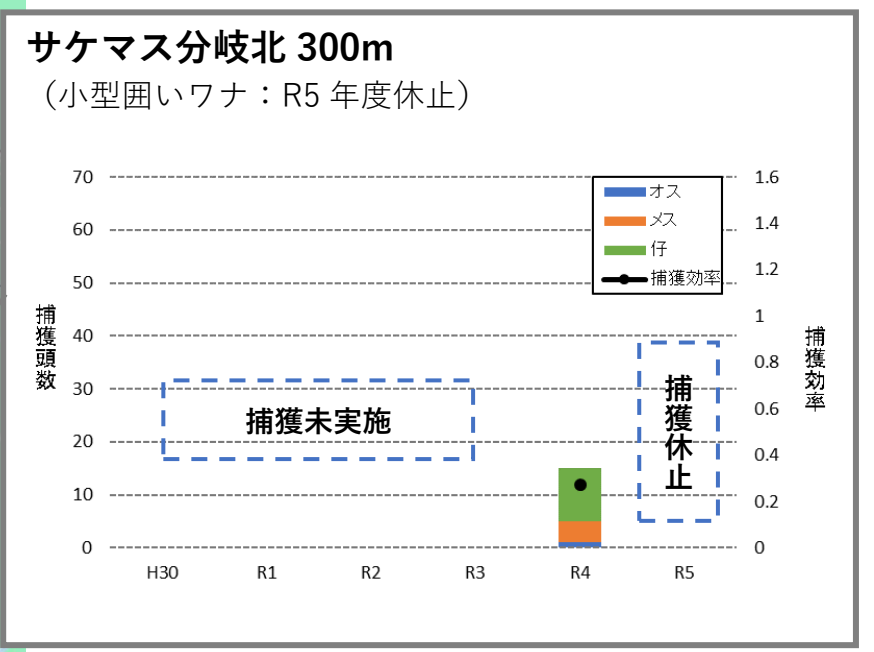
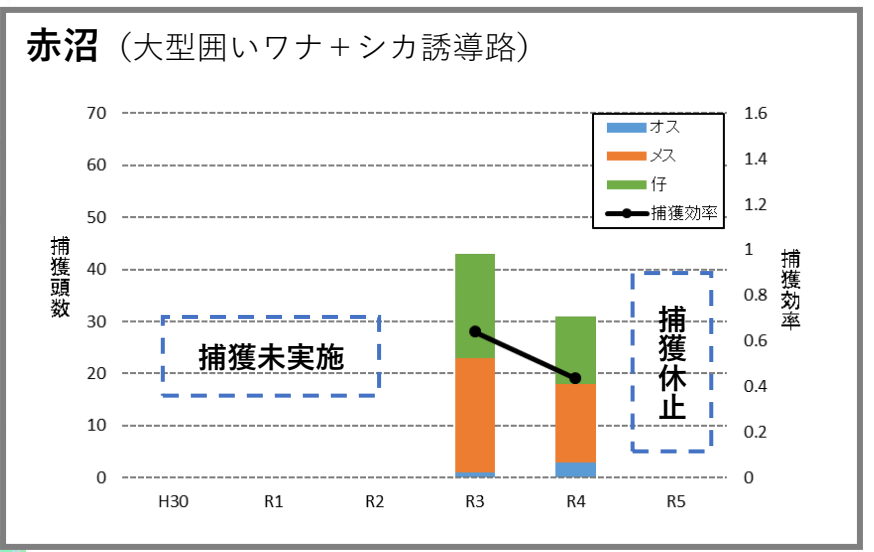
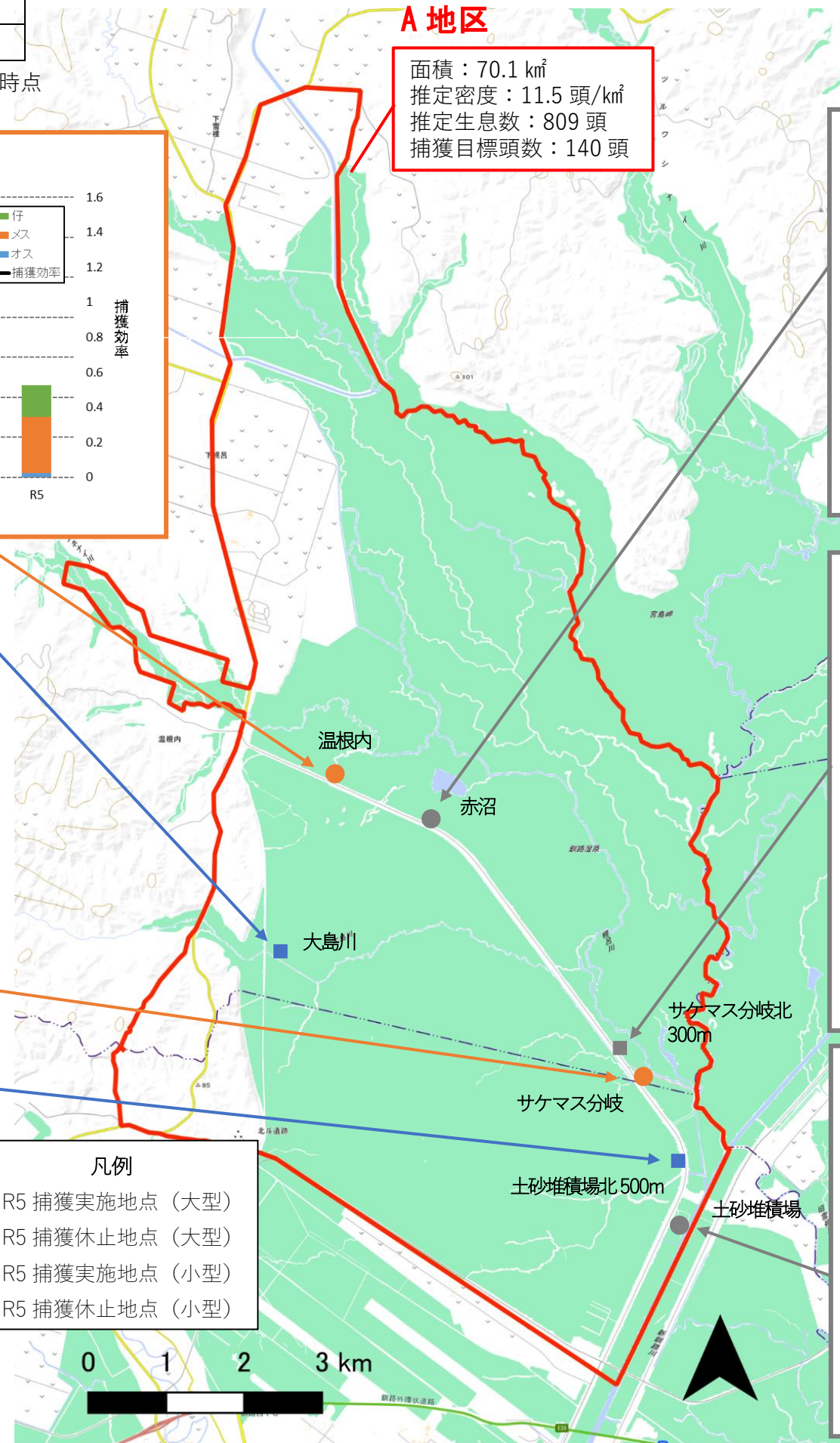
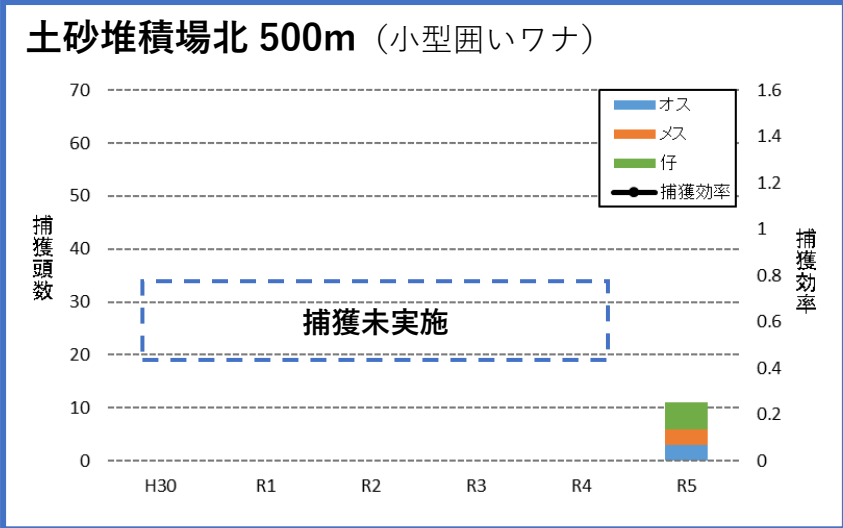
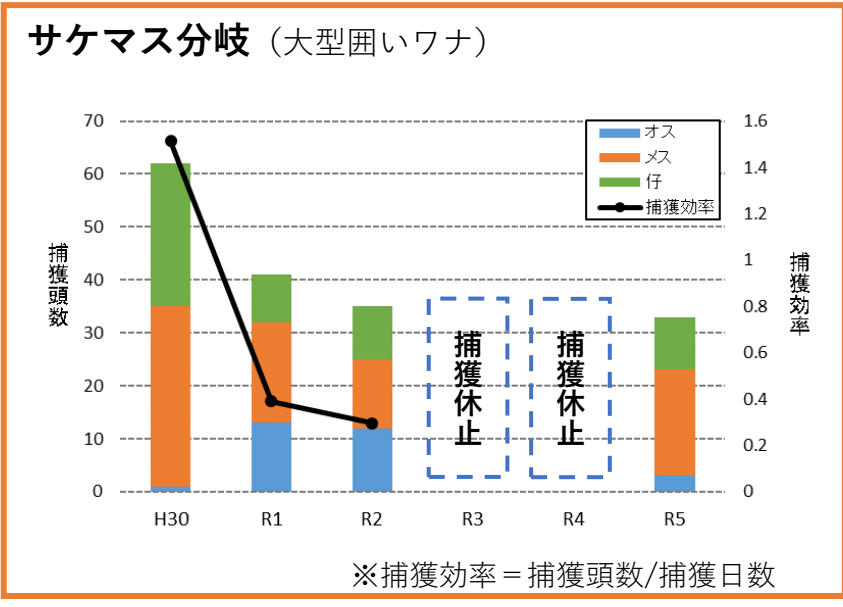
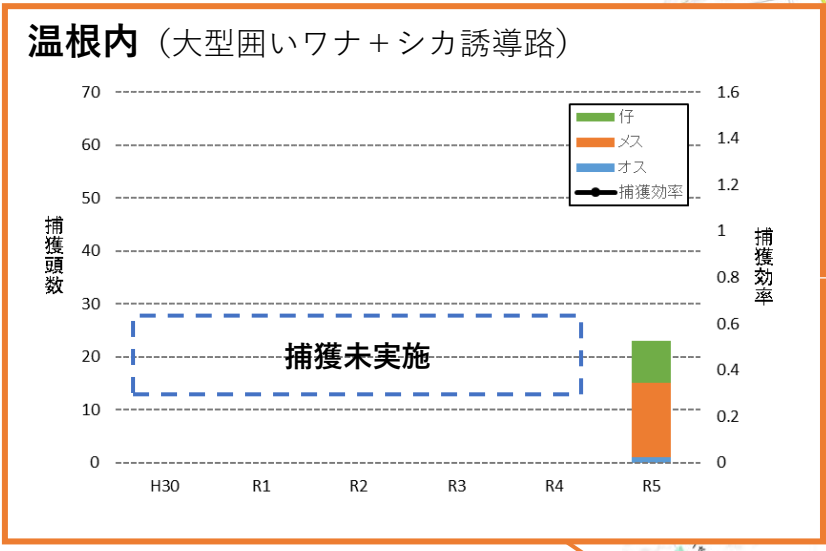
1. A地区における捕獲結果

(第1期)				(第2期)	
H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
62頭	64頭	89頭	86頭	56頭	67頭

※2月19日時点

大島川 (小型囲いワナ)

捕獲なし
(2月19日時点)



実施計画（第2期）では、第1期計画期間の捕獲実績（75頭/年平均）も踏まえて、A地区におけるエゾシカの増加を抑制するための捕獲目標頭数の目安（自然増加率による翌年の増加数）を設定することとなっている。

今年度（2月19日時点）の捕獲結果を踏まえ、R6年度の捕獲目標頭数の目安を試算した。

表1. A地区におけるエゾシカ捕獲目標頭数（目安）の考え方

①	A地区におけるR3年2月の推定越冬個体数	809頭
②	①のうち、湿原を通年利用すると考えられる個体数【①×0.87】 (GPS首輪調査結果から、およそ全体の87%と試算)	703頭
③	②の自然増加率(1.2)によるR4年の増加数【②×0.2】 =湿原内における捕獲目標頭数の目安/年	140頭※
R5年度の捕獲目標頭数の試算		
④	R4年度の捕獲頭数	56頭
⑤	A地区における推定越冬個体数のうち、R4年に湿原を通年利用すると考えられる個体数【②+③-④】	787頭
⑥	⑤の自然増加率(1.2)によるR5年の増加数【⑤×0.2】 =湿原内におけるR5年度の捕獲目標頭数の目安/年	157頭
⑦	R5年度の捕獲頭数(2月19日時点)	67頭
⑧	A地区における推定越冬個体数のうち、令和6年度に湿原を通年利用すると考えられる個体数【⑤+⑥-⑦】	(877頭)
⑨	⑧の自然増加率(1.2)による翌年の増加数【⑧×0.2】 =湿原内におけるR6捕獲目標頭数の目安/年	(175頭)

※ 本地区内外でのエゾシカの移出入があると考えられるため、捕獲による効果を評価する際には慎重な検討が必要である。

2. 各捕獲場所の現状と課題

(1) 温根内（大型囲いワナ）

<現状>

- ・今年度から新たに捕獲場所として設定し、湿地の林内にワナを設置し、湿原でシカを捕獲したのち誘導路を用いて搬出する。
- ・12月26日から捕獲を開始。2月19日時点で2回ワナを稼働させ23頭を捕獲。
- ・給餌中に約10頭前後のエゾシカが誘引され、すぐにワナ内に入る様子がみられ、捕獲は順調に進行中。

<課題・対策>

- ・ワナから1km圏内の温根内木道周辺には、約40頭のエゾシカが滞在しているが、一部のエゾシカしかワナまで誘引できていない。
→広域に給餌・誘引を実施して、さらなる捕獲を目指す。

(2) 大島川（小型囲いワナ）

<現状>

- ・今年度から新たに捕獲場所として設定し、鶴居村村営軌道跡沿いの湿地林にワナを設置。
- ・1月11日から捕獲を開始し、5回捕獲待機を試行しているが、まだ捕獲に至っていない。
- ・12月末までは10頭以上のエゾシカが餌付いていたが、1月以降にワナ周辺のエゾシカの痕跡が薄くなり、2月に入り再び痕跡が濃くなっている。
- ・12月中旬に野犬が2回ほど撮影された。

<課題・対策>

- ・エゾシカがワナに訪れる頻度や時間がまだ不安定で捕獲に至っていない。
→ワナの周囲500m程度の範囲で給餌し、ワナに馴化させる。
- ・除雪の機械の都合でワナ手前まで500mまでしか除雪ができないため、徒歩で給餌・捕獲運搬作業をする必要がある。今年度はソリを用いて人力で運搬。
→捕獲頭数が見込める場合には、運搬方法を検討。

(3) サケマス分岐（大型囲いワナ）

<現状>

- ・平成30年度から令和2年度まで捕獲を実施。周辺の個体数が減少したことから令和3年度と4年度は休止。
- ・今年度は12月22日から捕獲を開始し、2月19日時点で4回ワナを稼働し33頭を捕獲。

<課題・対策>

- ・ワナ周囲500m範囲の餌付しているエゾシカは、残り20～30頭ほどとみられる。
→ワナ周囲1kmの範囲で広く給餌・誘引し、さらに継続して捕獲できるよう努める。

(4) 土砂堆積場北 500m (小型囲いワナ)

<現状>

- ・今年度から新たに捕獲場所として設定し、堤防法面に集まるエゾシカを捕獲することを目的に釧路河川事務所の協力のもと初めて堤防上にワナを試験的に設置。
- ・11月20日から捕獲を開始し、2月19日時点で8回ワナを稼働し11頭を捕獲。

<課題・対策>

- ・オスがワナを占有しメスや仔を追い払う様子がみられる。
→ワナ自体やゲートを広くするなど複数のエゾシカが出入りし易い構造を検討
→捕獲の障害となるオスを間引く対策を検討。
- ・設置位置が堤体の天端に近く、車両や人の通行により誘引に負の影響がでる
→次回実施の場合は、さらに道路から離れた場所に設置することを検討

<参考>

今年度は大型囲いワナのほかに小型囲いワナ2基を運用して試験捕獲を実施している。

右岸堤防道路の土砂堆積場北 500m には、秋期から堤防法面に集まるエゾシカの捕獲を目的として、堤防上にメッシュパネル式のワナ（サークルD）を設置した。

鶴居村村営軌道と大島川の交差点の湿地林には、単管パイプとネットを組み合わせたワナを設置した。除雪車両の都合上、ワナまで除雪ができないため、500m 程徒歩で歩く必要がある。そのため、資材運搬に労力を要することなどから、サークルDの部材よりも軽い単管パイプでフレームを組み、壁面には鋼線入りネットを張る構造とした。サークルDよりも設置に手間がかかるが、形状や大きさの変更に融通が利き地面に多少の凹凸がある場所でも設置でき、車両のアクセスが困難な場所でも運用できる。



写真1 設置時の様子 (大島川)



写真2 落下幕を下ろした状態のワナの様子 (大島川)

3. 各捕獲地点に設置したワナの外観



写真3 温根内の大型囲いワナ



写真4 サケマス分岐の大型囲いワナ



写真5 大島川の小型囲いワナ
4 m×4m×高さ 3m の単管・ネット組立式



写真6 土砂堆積場北 500m のワナ
4 m×4m×高さ 3m のメッシュパネル式
(製品名：サークル D)